

DI (Diffusion Index=景気動向指数) とは  
各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業  
割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来  
の見通し予測を行う。

DIがプラスなら……好転、上昇基調  
DIがマイナスなら……悪化、下降基調

記号の見方

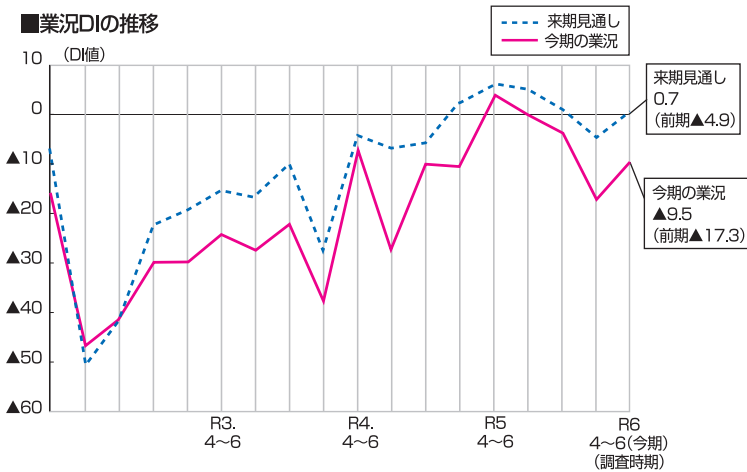
DI値	▲25P以下	▲25~ ▲10P未満	▲10~ ▲10P未満	10~ 25P未満	25P以上
景況	特に悪化	悪化	横ばい	好転	特に好転
	↓	↘	→	↗	↑



# 鹿児島商工会議所 景況調査

調査期間 令和6年4~6月  
回答企業数 150社

■業況DIの推移



**【今期(令和6年4~6月期)の業況】**  
全産業の業況DI値は、▲9.5  
(前期比プラス7.8ポイント)と  
改善した。産業別で見ると建設業、  
卸売業、サービス業で改善が見られ、  
中でも卸売業では前期比でプラス  
52.3ポイントと大幅に好転してい  
る。

**【来期(令和6年7~9月期)の見通し】**  
全産業の来期見通しは、0.7  
(前期比プラス5.6ポイント)と  
改善。建設業を除いた各産業で横ば  
いの状態が続いている。

**業況は前期から持ち直し。来期見通しは全産業で横ばい。**

■産業別DI値表

業況	前期 [R6.1~3] (A)	今期 [R6.4~6] (B)	増減 (B)-(A)	来期見通し [R6.7~9]	
				値	変化
全産業平均	▲17.3	▲9.5	7.8	0.7	→
製造業	▲22.2	▲26.5	▲4.3	8.6	→
建設業	▲26.1	▲3.7	22.4	▲11.5	↘
卸売業	▲39.3	13.0	52.3	9.1	→
小売業	0.0	▲25.9	▲25.9	4.0	→
サービス業	▲2.9	0.0	2.9	▲5.9	→
売上額	全産業平均 ▲7.9	▲2.7	5.2	7.6	→
製造業	▲13.9	▲25.7	▲11.8	20.0	↗
建設業	▲34.8	▲26.9	7.9	▲20.8	↘
卸売業	▲21.4	22.7	44.1	26.1	↗
小売業	34.5	11.1	▲23.4	7.7	→
サービス業	▲8.6	10.8	19.4	2.7	→
資金繰り	全産業平均 ▲12.8	▲4.8	8.0	▲1.4	→
製造業	▲17.6	▲20.6	▲3.0	▲5.9	→
建設業	▲13.0	▲3.8	9.2	▲7.7	→
卸売業	▲14.3	9.1	23.4	8.7	→
小売業	▲7.1	▲7.4	▲0.3	▲7.7	→
サービス業	▲11.4	2.7	14.1	5.4	→
採算	全産業平均 ▲11.3	▲8.8	2.5	▲8.4	→
製造業	▲19.4	▲22.9	▲3.5	▲2.9	→
建設業	▲21.7	▲18.5	3.2	▲29.6	↘
卸売業	▲32.1	21.7	53.8	17.4	↗
小売業	20.7	▲29.6	▲50.3	▲16.0	↘
サービス業	▲5.7	8.6	14.3	▲9.1	→

**【今期の売上額・資金繰り・採算】**  
全産業の売上額DI値は、▲2.7  
(前期比プラス5.2ポイント)とな  
り、産業別では卸売業が前期比プラス  
44.1ポイントと大幅に改善した。  
全産業の資金繰りDI値は、▲4.8  
(前期比プラス8.0ポイント)と  
なり、産業別では卸売業が前期比プラ  
ス23.4ポイントと大きく改善した。  
全産業の採算DI値は、▲8.8  
(前期比プラス2.5ポイント)を  
示した。産業別で見ると卸売業が前  
期比プラス53.8ポイントと大きく  
好転する一方、小売業は前期からマ  
イナス50.3ポイントとなり大幅な  
悪化へと転じている。

**【回答企業のコメント】**  
・原材料不足が原因で商品在庫が  
減少し、売上の減少へと繋がって  
いる(製造業)  
・長期的な工事案件においては資  
材価格が上昇することを見過して  
仕入を行うが、そこに資金繰  
り・受注額変更が絡み、なかなか  
思うような結果に繋がらない(建  
設業)  
・新築市場の需要に停滞の気配が  
ある。物価高騰↓価格上昇の流れ  
を消費者が敬遠しているのでは  
ないか(サービス業)